

◆スクールポリシー

【グラデュエーション・ポリシー（育成をめざす資質・能力に関する方針）】

- ①自ら学び、考え、行動することができる豊かで自立した生徒を育成します。
- ②自己を究め個性を磨き、生涯にわたって夢や志の実現に挑戦する生徒を育成します。
- ③他者を思いやり、多様な人々と協働して学ぶ態度や豊かな表現力・発信力・コミュニケーション力を備えた生徒を育成します。
- ④課題解決に向けて積極的に取り組み、社会の形成に参画し貢献する生徒を育成します。
- ⑤多様な価値観を理解し、グローバルな視点で世界と向き合うことのできる生徒を育成します。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）】

- ①生徒一人ひとりの興味関心や進路に応じた多様な選択科目により、真の学力を身につける文理の枠を超えた学びを展開します。
- ②「産業社会と人間」「総合探究」「課題研究」を通して、自己の在り方・生き方を真剣に考え、表現力・発信力・コミュニケーション力を身につける学びを展開します。
- ③概ね7割以上の授業を習熟度別・少人数授業で実施し、基礎から応用への確かな学力の伸長と自己肯定感の高揚を目指すとともに、丁寧な進路ガイダンスを展開します。
- ④大学や地域等と連携し、社会課題の解決に向けた実践的な探究活動を展開します。
- ⑤海外修学旅行、短期語学研修の実施や海外姉妹校との国際交流事業を展開します。

【アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）】

- ①自ら考え、甘えを克服しようとする生徒を待っています。
- ②夢と志の実現に向け、仲間とともに高め合い、究めようとする生徒を待っています。
- ③日々の生活を大切に、つねに新しく未来に生きようとする生徒を待っています。

A(4)・・・よくできた B(3)・・・できた C(2)・・・あまりできなかった D(1)・・・できなかった 評価基準 A>=3.4 B>=2.7 C>=2.0 D<2.0

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果等	平均	評価	昨年
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	1 実践目標 学校のホームページ、ブログ、パンフレットを通じて、学校の情報を可能な限り公表する。	3.2	B	3.0
		地域や関係機関と連携した学校づくり	2 実践目標 地域や関係機関との連携を密にして、学校安全に関する情報を共有する。	3.1	B	3.0
		広報活動の推進	3 実践目標 オフ・ハイスクール、中学校訪問、学校説明会などを通じて学校のPR活動を充実させる。	3.6	A	3.3
		学校評議員制度の活用	4 実践目標 学校評議員会を複数回実施し、ご意見等を学校運営に反映させる。	3.1	B	3.0
		社会の変化に対する主体的な対応	5 実践目標 グローバル化、情報化が進む社会の変化に対応し、主体的な取組を行う。	3.1	B	3.0
	生徒指導	生徒指導方針の確認と推進	6 実践目標 生徒指導方針の確認と指導体制の充実を図り、共通理解に基づく生徒指導を推進する。	3.0	B	3.1
			7 実践目標 挨拶、ベル着、頭髮、制服着用日等の指導を徹底する。	2.8	B	2.8
			8 実践目標 学校いじめ基本方針の毎年の見直しを行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を行う。	3.1	B	3.2
		生徒指導の充実	9 実践目標 自転車通学時のマナー指導、遅刻指導を徹底する。	2.8	B	2.8
			10 実践目標 個人面談・各種調査を通して生徒理解を図るとともに、家庭への連絡や家庭訪問等を通して家庭との連携を図る。いじめ防止に学校全体で取り組む。	3.2	B	3.3
		生徒の内面理解を図る指導	11 実践目標 キャンパスカウンセラーによるカウンセリング研修を実施し、生徒の内面理解に基づく指導について実践力を向上させる。	3.4	A	3.3
			12 実践目標 文化祭、体育大会、球技大会を通して、生徒の自主・自律を育む。	3.3	B	3.1
	進路指導	生徒の自主性を育む指導	13 実践目標 部活動への活発な参加と、安全指導・救急対応の適切な実施等を通して部活動の充実にも努める。	3.2	B	3.2
			14 実践目標 3年間を見据えた進路計画を策定して、組織的、継続的な進路指導を行う。	3.3	B	3.3
			15 実践目標 進路に関する情報提供を適切に行う。	3.3	B	3.4
			16 実践目標 模試の回数・内容を適切なものにし、面談等を通して自己実現を図る指導を行う。	3.2	B	3.1
	教職員の質の向上	実践的指導力の向上	17 実践目標 進路室・閲覧室を充実させ、進路指導計画、補習・小論文指導の実施内容を適切なものにする。	3.4	A	3.2
			18 実践目標 外部講師を活用した講演会、大学出前授業等により、生徒の進路意識を向上させる。	3.3	B	3.3
	危機管理体制の整備	実践的指導力の向上	19 実践目標 進路、生徒指導、保健、人権教育等、学校の諸課題について職員研修を実施する。	3.2	B	3.3
			20 実践目標 各教員が実践的指導力の向上に努めるべく、公開授業や研究授業を活用する。	3.0	B	3.1
			21 実践目標 危機管理マニュアルの見直しを行い、その内容について職員が理解をし、危機管理意識の向上を図る。	3.0	B	3.0
	学校運営	校内安全対策の充実	22 実践目標 施設の安全点検や避難訓練や防災研修会等を行い、校内安全対策の見直し充実を図る。	3.1	B	3.1
			23 実践目標 救急救命講習を職員や生徒に実施して、救急時に対応できる実践力の向上を図る。	3.4	A	3.5
			24 実践目標 生徒会役員・学級委員を活用し、全校集会や式典を適切に実施する。	3.2	B	3.0
		学校運営全般	25 実践目標 本校が採択されているDX加速化推進事業やグローバルリーダー人材育成事業を活用して、学校教育の特色化に向けた取組を推進する。	3.2	B	3.0
			26 実践目標 保護者、地域と学校の連携を円滑にする。	3.2	B	3.2
			27 実践目標 教育目標、学校経営、各年次・各部の目標の周知と理解を図る。	2.9	B	3.0
			28 実践目標 校務運営委員会、職員会議を適切に運営し、職員のアイデアを生かす。	3.0	B	3.0
		働き方改革の推進	29 実践目標 職員の勤務時間の適正化(定時退勤日、ノー会議デー、ノー活デー等)を推進し、ワークライフバランスの実現を図る。	2.8	B	2.6
			30 実践目標 安全衛生委員会を活用して、業務改善と職場環境の整備、メンタルヘルスの保持増進等を協議、推進する。	2.9	B	2.8
			31 実践目標 掃除・大掃除・大緑化作業等を適切に実施する。	3.4	A	3.4
	校内環境と保健	校内環境と保健	32 実践目標 カウンセラーや通級指導担当教員と連携し、教育相談やケアを実施する。また保健室を適切に整備する。	3.4	A	3.4
			33 実践目標 保健だより等の発信により、心身ともに健康であるための正しい知識を身につけさせる。	3.3	B	3.4
			34 実践目標 多様な選択科目を用意し、科目選択の指導を適切に行うとともに、基本的な学習習慣が身につく指導をする。	3.2	B	3.2
	教育課程	教育課程	35 実践目標 特別非常勤講師制度の活用や魅力アップ推進事業等の成果を継続的に活用し、確かな学力を向上させる。	3.2	B	3.1
			36 実践目標 学習目標に基づいて年間計画を立て、それに沿って効果的に授業を行う。	3.1	B	3.2
			37 実践目標 英語・数学等で習熟度別授業等を実施し、個に応じた指導や成績不振者への指導を適切に行う。	3.2	B	3.3
			38 実践目標 他国の歴史や文化の理解 国際交流事業や授業を通して異文化理解を推進する。	3.2	B	3.1
	課題教育	課題教育	39 実践目標 「産社」「総探」「課研」の内容を充実させ、探究活動やその成果の表現技術を高める。	3.2	B	3.1
			40 実践目標 地域行事への参加や周辺各種学校との合同授業などで地域との連携をより充実させる。	2.9	B	3.0
			41 実践目標 野外活動や修学旅行等の学校行事を適切に計画し、実施する。	3.4	A	3.1
			42 実践目標 人権HRと人権講演会を適切に実施し、人権尊重の精神を醸成する。	3.3	B	3.2
			43 実践目標 生徒の情報モラルやマナーを向上させ、情報社会に潜む危険性について指導する。	3.1	B	3.1
44 実践目標 保護者の立場から見ると、家庭でもプリントを出さない生徒が多く課題である。生徒と教員が課題を共有し、共に解決に向かう姿勢が必要である。子どもは感化されやすく、先生や周りの生徒からの声掛けで行動できるため、教員から積極的に働きかける機会をつくってほしい。質問力は学問の基礎であり、「疑問を持ち、解決しようとする姿勢」をぜひ育ててほしい。						

全体として学校運営はよく機能していると感じる。研究授業など、授業をよりよくする取組もテーマの一つにしてはどうでしょうか。授業研究については、授業改善の努力が見られるが、先生方が授業改善を素早く取り組んでいく必要がある。教員側の意識変革も求められる。

発表会の質は高いが、内容のマンネリ化を打破したい。探究活動は多くの学校で取り組んでいるため、差別化が課題となる。前年度の踏襲ではなく新しい要素を取り入れる必要がある。何をとり入れ、何を捨てるかを精査することが重要。指導に関わる教員は全教員が関わる意識を持つ必要がある。良い取り組みは生徒を巻き込み、3年間を通して継続して発展させてほしい。総合学科の生徒指導には粘り強さが必要であり、リーダーシップを発揮して進んでほしい。

課題解決までの具体的な計画を立てて実行してほしい。時間管理や提出物の扱いは全年次において重要であり、社会に出たときに求められる時間・期限の厳守を育てていただきたい。オンライン等を活用した国際交流の機会を今後も確保してほしい。質問する力・発言する力を育てることが重要であり、コミュニケーション力とも密接に関連している。働き方改革の中で「教師は子どもにとってなりたいたい職業」であり続けるためにも、教員がいきいきと働いてほしい。

普段の生活指導(いわゆる「しつけ」)を当たり前のレベルから丁寧に行うことが、結果的に全ての質の向上につながる。挨拶、時間を守ることをはじめ、日常の行動がしっかりできれば、学習にも好影響が出る。コミュニティ・スクールへの移行に際しては、地域とのつながりや北部との連携が重要である。グラウンドの人工芝化などの取組も、学校選びの魅力として発信していきべきである。

高校無償化の影響で、公立から私立へ志願者が流れる可能性もあり、学校としての魅力発信を強化する必要がある。18歳選挙が始まったが投票率が低く、高校段階でも選挙公報の扱いや政治リテラシーの育成を検討すべきである。SNSが選挙にも影響を及ぼす現状をふまえ、教材化などの可能性を探ってほしい。地域の行事等では伊丹北高生に積極的に参加していただきたいと思っている。